

2018 年 12 月 1 日発行

一般社団法人 日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics



# Newsletter No. 28

## Maxillofacial Prosthetics

発行人 米原啓之

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

## 米原理事長のもと、新執行部がスタートしました

### 新理事長挨拶



理事長 米原 啓之

2018（平成 30）年 6 月より日本顎顔面補綴学会の理事長を拝命致しました。

本学会は 1976（昭和 51）年に第 1 回の研究会が開催され、その後 1984（昭和 59）年には学会となり歯科領域における専門性の高い活動を続けている歴史ある学会です。

顎顔面領域には、頭頸部腫瘍の治療、口唇口蓋裂をはじめとする先天性疾患および外傷などにより様々な組織欠損が生じる可能性があります。生命予後が重要なことはもちろんですが、顎顔面領域においては、患者さんが快適に社会生活を送る

ために機能と整容の回復も非常に重要です。しかし、複雑な機能の維持と高い審美性が求められるため、医療技術の進歩した現在においても、患者さんの十分な満足が得られる結果を得ることは容易ではありません。この困難を克服するために、本学会には補綴科、口腔外科、形成再建外科、摂食機能療法科、歯科技工士、歯科衛生士、言語聴覚士など多くの分野の専門家が会員として集い、学際的な活動をしています。各専門家が広く結集して連携を行うことで、患者さんのためを考え、その希望が十分かない満足できる治療を目指し、顎顔面補綴治療の進歩発展を通して広く社会に貢献できるようにさらなる努力をしていきたいと思ひます。

前理事長である鱒見進一先生をはじめとして、先人たちが長年築いてきた顎顔面補綴治療の知見と技術を継承し更に発展させ、新時代を担う後輩たちに伝承していくことが私に課せられた使命だと考えています。既に行われている若手研究者の海外派遣事業により顎顔面補綴の次世代を担う人材育成を行うとともに、本学会の伝統である学際的な活動をより広げ、社会にその専門性を周知するためにも、補綴科医と口腔外科医のみならず、摂食機能療法科医、歯科技工士、歯科衛生士、言語聴覚士など幅広い分野の学会員が増加するよう

にしたいと考えています。また、認定医、認定歯科衛生士、認定歯科技工士、認定言語聴覚士などの認定制度を充実させるとともに、顎顔面補綴治療のさらなる啓蒙のために、標準となるテキストの編纂も行いたいと考えています。

微力ではございますが、本学会発展のためにその運営に取り組んでいく所存ですので、会員各位の皆様のご理解とご協力の程何卒宜しくお願い致します。

## 新理事・新委員会 紹介

### 理 事

理事長：米原 啓之

副理事長：松山 美和

理 事：井原功一郎、大山 哲生、尾澤 昌悟、  
小野 高裕、古賀 千尋、小山 重人、  
佐々木啓一、佐渡 忠司、隅田 由香、  
関谷 秀樹、中島 純子、西脇 恵子、  
秀島 雅之（会計担当）、楨原 絵理、  
皆木 省吾、山下 善弘（次期大会長）、  
山森 徹雄、吉 岡 文

監 事：塩入 重彰、鱒見 進一

### 編集・用語検討委員会

委員長：山森 徹雄

委 員：猪野 照夫、井原功一郎、尾澤 昌悟、  
佐渡 忠司、隅田 由香、武 部 純、  
舘 村 卓、堀 一 浩、松山 美和

今期の活動として、学会誌「顎顔面補綴」の発行と専門用語解説の改訂を予定しています。現在、「顎顔面補綴」のオンラインジャーナル化に向け準備に入っております。より多くの方々の目に触れることになると思われますので、本学会の英知や活動をアピールすべく誌面の更なる充実を図りたいと考えています。是非、積極的なご投稿をお願い致します。委員会活動に精通した委員各位のご助力を仰ぎ、今期の活動を進めて参ります。

### 学術委員会

委員長：小山 重人

委 員：石 崎 憲、大山 哲生、荻野洋一郎、  
小野 高裕、佐藤奈央子、隅田 由香、  
関谷 秀樹、西脇 恵子、山内 健介

引き続き学術委員会委員長という大役を仰せつかることとなりました。今期は、新たに3名の委員に加わっていただくことができましたので、斬新な視点や切り口を加味して、より充実した委員会活動を目指しています。どうぞご協力の程よろしくお願い致します。

### 国際交流委員会

委員長：尾澤 昌悟

委 員：大山 哲生、武 部 純、服部麻里子、  
松山 美和、吉 岡 文

国際交流委員会は、会員および学術団体を代表して海外における学術大会や国際学会を通じ、本学会のプレゼンスの強化や会員への情報提供を行っています。今期の活動としては、第2回若手研究者海外短期研修の企画運営を担当しています。開催期間は2019年2月26日から3月1日迄を予定しています。現在、8月末までに受け付けた申請者のなかから、来年2月の実施に向けて研修候補者の書類選考を行っており、候補者が決まり次第学会よりお知らせ致します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 医療委員会

委員長：隅田 由香

委 員：大木 明子、大山 哲生、乙丸 貴史、  
古賀 千尋、佐々木啓一、佐藤 裕二、  
高橋 英和、常國 剛史、山口 能正、  
吉 岡 文

今期の医療委員会では、下記の2点の進展を目指します。引き続き先生がたの多方面からのお力とご指導を賜りますことをお願い申し上げます。

1. 薬機法の項目に顎顔面補綴装置を新規設定させ、さらに顔面補綴材料としてシルフィを申請する。
2. 32 年度保険項目収載および改定として技術提案書を提出する。

### 広報委員会

委員長：中島 純子

委員：猪原 健，大木 明子，関谷 秀樹，堀 一 浩，宮本 哲郎，吉 岡 文

~~~~~  
本委員会の主な業務はニュースレターの発行と学会ホームページの管理・更新です。新委員も加わり、顎顔面補綴を取り巻く多彩な視点から、会員や一般の人々が必要な情報を分かり易く提供するように努めてまいります。

### 認定医制度委員会

委員長：古賀 千尋

委員：門田 千晶，佐々木啓一，西脇 恵子，福井沙矢香，楢原 絵理，鱒見 進一，皆木 省吾，山口 能正

~~~~~  
学会員の皆様、今回米原新理事長の下で認定医制度委員長を仰せつかりました古賀と申します。旧委員会では鱒見前理事長のご指導、委員会の先生方のご尽力により、認定医制度の見直しを進めさせていただきました。新しい委員会では、若い先生にもメンバーに加わっていただき、認定医希望者が増えるように努力していきたいと思います。ご協力お願い申し上げます。

### 会則検討委員会

委員長：関谷 秀樹

委員：尾澤 昌悟，寒河江 孝，高橋謙一郎，高 橋 哲，生木 俊輔，向 山 仁，山森 徹雄

~~~~~  
米原新体制でも会則検討委員長を拝命しました。関谷でございます。本体制で着手致しますのは、代議員選挙方法の再考とそれに伴う会則（細

則）の修正であります。外科系会員の減少が著しい昨今、全理事が現行選挙制度では問題があると考えております。また、日本顎顔面補綴学会の特色でもある「学際領域」を司る多職種会員も代議員である必要があります。会員の皆様のご意見・ご協力をお願い致します。

### 診療ガイドライン作成委員会

委員長：小野 高裕

委員：大山 哲生，塩入 重彰，中島 純子，中林 晋也，秦 正 樹，服部麻里子，原口美穂子，藤原 茂弘，皆木 祥伴，宮 前 真，村上 和裕

~~~~~  
今期も委員と幹事合わせて 12 名のメンバーで、「顎顔面補綴診療ガイドライン」改訂作業と言う孤独な長距離走を続けています。全員息が上がっていますが、ようやくゴールが見えてきました…もう少しだ、頑張るぞ！

### 学際連携委員会

委員長：小山 重人

委員：門田 千晶，加藤 裕光，谷口 裕重，西川 圭吾，西脇 恵子，福井沙矢香

~~~~~  
今期から学際連携委員長を仰せつかることとなりました。学際連携は顎顔面補綴に欠かすことのできない最重要課題と捉えています。多職種の委員で打開策を検討してまいりますので、どうぞご協力の程よろしくお願い致します。

### 特命委員会

委員長：佐渡 忠司

委員：石上 友彦，佐々木啓一，塩入 重彰，鱒見 進一，米原 啓之

~~~~~  
特命委員会はその性質上、恒常的に会務を担うことはありませんが、前年度は会則検討委員会と連携し、特別名誉会員の推薦に携わりました。今後も本委員会が必要とされる事案について、理事会の要請に基づいて適時協議を行っていく予定です。

## 倫理委員会

委員長：井原功一郎

委員：古賀 千尋，皆木 省吾，松山 美和

~~~~~

倫理委員会では、前委員長の米原啓之先生のご指導を頂きながら、時代の流れに沿った学会倫理規定の整備や各委員会と連携して倫理規定の改訂に努めていきたいと考えております。

## COI 委員会

委員長：佐々木啓一

委員：小 川 徹，関谷 秀樹，鱒見 進一

~~~~~

昨今、学術活動や広報活動における利益相反が厳しく見られるようになりました。しかし、そもそも COI 審査は産学連携での研究の正当性を担保するためのものです。本学会でも開示すべき事項が多くなることを期待しています。

## 第 36 回総会・学術大会案内



大会長 佐々木啓一（東北大学）

\*\*\*\*\*

会 期：2019 年 6 月 27 日（木）～ 29 日（土）  
会 場：東北大学星陵会館（星陵オーデトリウム）  
<http://www.tohoku-kyoritz.jp/jamp36/index.html>

\*\*\*\*\*

第 36 回の総会・学術大会は、「リエゾン顎顔面リハビリテーション」をメインテーマとして開催致します。2014 年に高橋哲教授を大会長として開催されました第 31 回大会から、5 年ぶりの仙台での開催となります。

東北大学では 2005 年 10 月、医学部附属病院



定禅寺通のけやき並木

と歯学部附属病院を統合し、東北大学病院を創設しました。これに併せ、医科歯科連携を具体的に推進する場として、顎顔面補綴を主な治療内容とする「顎口腔再建治療部」（部長：小山重人）を設立しました。以来、本治療部は歯科部門内での連携のみならず、耳鼻咽喉科、形成外科、放射線治療科等、多くの医科診療科との連携を積極的に展開し、現在では周術期口腔ケアから摂食嚥下リハビリテーションまでの頭頸部がんのチーム医療の要となっています。

元来、本学会のスコープである顎顔面補綴領域は集学的な領域であり、特に補綴の手法という歯科のアイデンティティを活かしつつ、顎顔面領域の形態の再建、そして咀嚼・嚥下・発音等、ヒトが生きるうえで必須の機能の回復、保全を図る極めて重要な医療です。これらは頭頸部がんの治療成績が飛躍的に向上し、超高齢社会となった今日ではますます重要度を増しています。顎顔面補綴に従事する私どもは、その意味合いをさらに発信し、本領域の要として活躍することが求められています。

そこで本大会では、私どもに何が求められ、何をなすべきかを再認識し、さらなる発展を図るべく、顎顔面補綴におけるリエゾン医療に焦点を当て企画しました。また懇親会も、みちのく仙台らしく準備しています。青葉の美しい季節です。数多くの皆様のご来仙をお待ちしております。



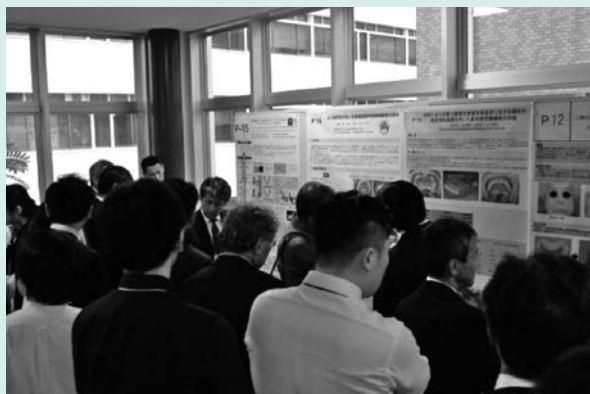
## 第 35 回総会・学術大会報告

2018 年 6 月 28 日から 30 日までの 3 日間、徳島大学大塚講堂にて一般社団法人日本顎顔面補綴学会 第 35 回総会・学術大会を開催致しました。

学術大会初日の基調講演では、谷口尚先生に長きにわたる顎顔面補綴臨床の経験をご教授いただき、顎顔面補綴について改めて理解を深められました。総会では、本学会に多大なるご貢献をいただきました名誉会員の先生方の表彰が行われました。午後には特別企画として、患者団体「えがの会」の若狭信之氏と荒木貞宣氏から自らの病気の経験と苦労、患者会の活動についてお話しいただき、聴衆一同、感銘を受けました。最終日の特別シンポジウムでは、宮本洋二先生と鮎川保則先生に再生医療とその臨床応用についてご講演ご討論いただき、最新情報を得ることができました。そして、会員の皆様からは一般口演 23 題、ポスター発表 18 題をいただき、会場ではいつも以上の活発な討議が繰り広げられました。大会後に



若狭信之氏、荒木貞宣氏(患者の会)と松山大会長



活発な討論が行われたポスター発表

は第 23 回教育講演が開催され、PAP のリハビリテーションについて 3 医療職種の各立場から、武井良子先生、古屋純一先生と宮本哲郎先生にご講演いただきました。

この大会が先生方の最新の医療技術や医療材料などの情報発信と意見交換の場になりましたならば、大会長として心より喜ばしく思います。260 名を超える皆様にご参加いただき、そのご支援・ご協力のおかげをもちまして成功裡に大会を終えることができました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。(大会長 松山美和)

### 基調講演



#### 顎顔面補綴診療 —39 年間の臨床経験から 見えてきたもの—

谷 口 尚 先生

東京医科歯科大学 (TMDU) 大学院  
医歯学総合研究科顎顔面補綴学分野

大会初日の午前には基調講演が行われました。

谷口先生は 1979 年に東京医科歯科大学を卒業され、顎顔面補綴学専攻の大学院生として大学院を修了された後、本年 3 月にて東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面補綴学分野の教授を退官されるまでの 39 年間、日本の顎顔面補綴治療に長きにわたり携わってこられるとともに、学会活動や留学生の受け入れなど、顎顔面補綴を通じた諸外国との国際交流にも従事されてきました。また日本顎顔面補綴学会の理事長、第 32 回学術大会の大会長を歴任されたことも記憶に新しいことと思います。

本講演は、顎補綴装置、顔面補綴装置、補助装置など、大変多くの症例を長年にわたる研究成果を交えて供覧していただきました。また、目の前の患者様のために懸命に診療を続けて来られた先生からチームアプローチが重要であるということをお示しいただきました。講演を通して、改めて谷口先生が日本顎顔面補綴学会に残された多くの功績を感じることができ、参加者一同にとって大変感慨深い講演となりました。

(吉岡 文)

## 特別名誉会員・名誉会員の表彰

学会細則の改訂により、これまでの名誉会員を特別名誉会員に改称し、新たな名誉会員が設定され、社員総会後に表彰が行われました。残念ながら全員のご出席とはなりませんでした。本学会の発展に貢献して下さった諸先生方にお集まりいただき、感謝の意を表しました。現在の特別名誉会員、名誉会員は以下の方々です。

特別名誉会員：

大山喬史先生、瀬戸暁一先生、田中貴信先生

名誉会員：

平井敏博先生、石橋寛二先生、谷口 尚先生、  
後藤昌昭先生、松浦正朗先生、下郷和雄先生、  
久保吉廣先生、清野和夫先生、大畑 昇先生、  
野村隆祥先生、熊倉勇美先生、臼井秀治先生、  
鈴木規子先生



左から、

熊谷勇美先生、下郷和雄先生、臼井秀治先生、  
鈴木規子先生、谷口 尚先生、野村隆祥先生、  
田中貴信先生、久保吉廣先生、鱒見進一前理事長

## 関連学会報告

### 第24回 日本摂食嚥下 リハビリテーション学会学術大会

2018年9月8日（土）、9日（日）の2日間、「摂食嚥下の地域リハビリテーション 集い、語り、動く」をテーマに、仙台市仙台国際センターと川内萩ホールにて第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会が行われました。9月6日に北海道胆振東部地震が発生したため、北海道在住の先生方は来ることができなかったようで

すが、それでも例年通り多数の臨床家・研究者が参加し、会場はどこも常に満員でした。また、演題数も非常に多く、基礎から診断・臨床、小児から高齢者と幅広い内容の発表に対して、活発な討論が行われていました。口腔・頭頸部疾患や補綴・装具といったセッションがあり、顎顔面補綴に関する発表も散見されました。

今回、海外招聘講演が5題、イングリッシュセッションでは15題の一般口演があり、各国からの参加者がディスカッションを繰り広げていました。また、学会前日には日韓シンポジウムも開催されました。アメリカのDRS、ヨーロッパのESSDと合同でWorld Dysphagia Summitを立ち上げて世界的な連携をとるとともに、アジア圏での摂食嚥下リハビリテーションの啓発を目指して英語版e-learningを構築して、アジア各国でセミナーを開催する予定としているなど、同学会の国際化への積極的な取り組みが感じられました。来年度は第25回大会が2019年9月6・7日に新潟で開催されます。また、2020年には、第26回大会とともにWorld Dysphagia Summitが名古屋で開催予定となっています。（堀 一浩）

## 日本歯科審美学会第29回学術大会

2018年9月29日（土）、30（日）に、埼玉県川口市にて日本歯科審美学会第29回学術大会が明海大学藤澤政紀大会長のもとで開催されました。海外講演や特別講演、一般口演とならび、大会2日目には認定医講習プログラムとして、『顎顔面補綴における審美とQOL』と題したアドバンストセミナーが行われ、日本顎顔面補綴学会から、九州歯科大学鱒見進一前理事長、明海大学勅使河原大輔先生、愛知学院大学吉岡文、また座長として愛知学院大学武部純先生が出席されました。鱒見先生からは「Dentogenicを考慮した前歯部人工歯排列」と題し、前歯部の人工歯排列における審美性について、聴衆への提言がなされました。吉岡からは「顔面補綴とQOL」と題し、エプテーゼ治療の概要と顔面欠損症例におけるQOLが論じられました。また、勅使河原先生からは「顎補綴とQOL」と題した講演が行われ、口腔内の悪性腫瘍切除症例における、多職種連携

の重要性が述べられました。セミナーの最後にはディスカッションが行われ、その後、座長の武部先生より感謝状の贈呈が行われました。

台風 24 号の接近にも関わらず、たくさんの会員の先生方の参加があり、顎顔面補綴治療に対する関心の高さが見受けられました。（吉岡 文）



アドバンスセミナーを担当された先生方(左から)、吉岡 文先生、鱒見進一先生、勅使河原大輔先生、武部 純先生

### 第 63 回日本口腔外科学会総会・学術大会

2018 年度（公社）日本口腔外科学会学術大会（11 月 2 日～ 4 日）が、東京歯科大学口腔顎顔面外科学講座の柴原孝彦大会長のもと、幕張メッセにて開幕されました。昨年は台風に見舞われましたが、今回は晴天で会場も満員となりました。

その中で、外傷や腫瘍による顔面欠損に対する外科的修復を扱った演者は、ドイツ Freiburg 大学の Schmelzeisen 教授のみでした。Innovations in Orbital Reconstruction with Patient Specific Implants and Multiple Data Fusion Options と題した眼窩周囲のチタンプレートの複合修復や自家開発の眼窩底再建プレートによる顔



貌修復は見事であり、まさに Art でした。腫瘍症例による眼窩内容切除が 2 例提示されましたが、1 例は皮弁による眼窩完全被覆と顔面インプラント + 3D プリンターによる顔面補綴症例が提示され、筆者はすかさずその材料について質問をしました。残念なことに補綴部門に任せただけで「材料は知らないが、認可は受けている」と話されていました。筆者の留学中は、顎変形症や口唇口蓋裂などの定例手術ばかりでこうした外傷手術はありませんでしたが、間近で見てみたかったです。

（関谷秀樹）



開催校 東京歯科大学のマスコット(ピバノスケ)、開催地 千葉県のマスコットキャラクター（チーバくん）と筆者

### 関連学会のご案内

- 第 37 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会  
会 期:2019 年 1 月 24 日（木）～ 25 日（金）  
大会長：梅田 正博（長崎大学大学院）  
会 場：長崎ブリックホール  
問合せ：（株）コンベンションリンケージ内  
E-mail：js0037@c-linkage.co.jp  
<http://www.c-linkage.co.jp/js0037/index.html>
- 第 29 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会  
会 期:2019 年 1 月 24 日（木）～ 25 日（金）  
大会長：香取 幸夫（東北大学大学院耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野）  
会 場：仙台国際センター  
問合せ：（株）コンベンションリンケージ内  
E-mail：jshns29@c-linkage.co.jp  
<http://www.c-linkage.co.jp/jshns29/>
- 第 42 回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会





# Newsletter No. 28

## Maxillofacial Prosthetics

会 期：2019 年 3 月 8 日（金）～ 9 日（土）  
大会長：折 舘 伸彦（横浜市立大学耳鼻咽喉  
科・頭頸部外科学）

会 場：久留米シティプラザ

問合せ：（株）コンベンションリンケージ内

E-mail：enge42@c-linkage.co.jp

<http://www.c-linkage.co.jp/jla31-enge42/index.html>

●第 73 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会

会 期：2019 年 4 月 19 日（金）～ 21 日（日）

大会長：嶋 田 淳（明海大学口腔顎顔面外科  
学分野 I）

会 場：ウェスタ川越

問合せ：（株）日本旅行内

E-mail：jss\_73@nta.co.jp

<http://web.apollon.nta.co.jp/jss73/>

●第 43 回日本口蓋裂学会総会・学術集会

会 期：2019 年 5 月 30 日（木）～ 31 日（金）

大会長：高木 律男（新潟大学大学院顎顔面口  
腔外科学分野）

会 場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

問合せ：（株）アド・メディック内

E-mail：jcpa43@admedic.jp

<http://admedic.jp/jcpa43/index.html>

●第 43 回日本頭頸部癌学会

会 期：2019 年 6 月 13 日（木）～ 14 日（金）

大会長：吉崎 智一（金沢大学医学系耳鼻咽喉  
科・頭頸部外科）

会 場：ホテル日航金沢

金沢市アートホール

問合せ：（株）コンベンションリンケージ内

E-mail：jshnc43@c-linkage.co.jp

<http://www.c-linkage.co.jp/jshnc43/>

●第 20 回日本言語聴覚学会

会 期：2019 年 6 月 28 日（金）～ 29 日（土）

大会長：木 村 暢（大分県言語聴覚士協会、  
JCHO 湯布院病院）

会 場：iichiko 総合文化センター，全労済ソ  
レイユ，大分県立美術館

E-mail：jaslht20@congre.co.jp

<http://www.congre.co.jp/jaslht20/index.html>

●日本老年歯科医学会第 30 回学術大会

会 期：2019 年 6 月 6 日（木）～ 8 日（土）

大会長：米山 武義（米山歯科クリニック）

会 場：仙台国際センター

問合せ：日本コンベンションサービス（株）東  
北支社内

E-mail：30jsg@convention.co.jp

●IADR/AADR/CADR General Session

会 期：2019 年 6 月 19 日（水）～ 22 日（土）

会 場：Vancouver West Convention Centre  
Vancouver, Canada

<http://www.iadr.org/2019iags>

皆様のご意見をお寄せください。

一般社団法人日本顎顔面補綴学会広報委員会  
委員長 中島純子

委 員 猪原 健，大木明子，関谷秀樹，  
堀 一浩，宮本哲郎，吉岡 文

E-mail：max-service@onebridge.co.jp